

Veritas NetBackup™ リリースノート

マニュアルバージョン 2

VERITAS™

Veritas NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2018-04-18

マニュアルバージョン: NetBackup 8.1.1

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の **Web** サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 8.1.1 について	8
	NetBackup 8.1.1 のリリースについて	8
	NetBackup の最新情報について	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について	9
	NetBackup のサードパーティコンポーネントについて	9
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	11
	NetBackup の新しい拡張と変更について	11
	NetBackup 8.1.1 の新機能、変更点、拡張機能	11
	NetBackup 8.1.1 の新しい RESTful API	13
	NetBackup と CloudPoint 間で統合されたスナップショットフレーム ワーク	14
	安全な通信による Bare Metal Restore のサポート	15
	NetBackup 8.1.1 のサポートの追加および変更点	16
	複数の NetBackup 製品、機能、プラットフォームの End-of-Life	18
	vSphere 5.1 のサポート終了	19
	NetBackup サポートユーティリティ (nbsu) の更新	19
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド	19
	NetBackup 8.1.1 の IPv6 サポート情報	20
	インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更 新するかまたは NetBackup 8.1.1 にアップグレードする	20
	NetBackup による Amazon Glacier ストレージクラスへのバックアップ のサポート	21
	NetBackup でのクラウド階層化によるバックアップのサポート	21
	Oracle インテリジェントポリシー (OIP) を使用する bpstart_notify お よび bpend_notify スクリプトのサポート	21
	NetBackup 8.1.1 クライアントをリストアするための NetBackup Bare Metal Restore 機能がサポートされている	22
	NetBackup 8.1.1 の MSDP の更新	22
	NetBackup インストールへの Nutanix Acropolis Hypervisor プラグ インおよび Hadoop プラグインの追加	23
	ポリシーの指示句を構成する Enterprise Vault バージョンを選択する ための依存関係の削除	23

第 3 章	操作上の注意事項	24
	NetBackup 8.1.1 の操作上の注意事項について	24
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	25
	インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールし ないでください	25
	HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて	25
	インストール時に IPv6 のみを使用する NetBackup 8.1.1 マスター サーバーと 8.1 のデュアルスタックホスト間の Web サービス接続 が確立されない	26
	AIX 7.1 で起きる可能性がある Java エラー	26
	HP-UX 11.31 IA64 でピュア IPv6 が有効になっているクライアントで インストールが失敗する	26
	NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	27
	IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項	28
	IPv6 のみを使用する NetBackup マスターサーバーとデュアルスタック クホストにおける接続のタイムアウトの問題	28
	SLAAC 構成が原因で NetBackup のホスト通信が失敗する	29
	NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	29
	リモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、「操作がタイム アウトしました」というメッセージが表示される	30
	X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特 定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある	31
	NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が 発生する	31
	NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する	31
	Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、 NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合 がある	31
	NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項	32
	マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントサーバーの Accelerator バージョンの必要条件	32
	NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	32
	NetBackup 8.0 以前のクライアントがある AIX および HP-UX プラット フォーム上で NetBackup 8.1 または 8.1.1 を BMR ブートサー バーとして使用して SRT を作成すると失敗する場合がある	32
	ユーザーが BMR 操作をクリーンアップした後もクライアントの [証明書 の自動再発行を許可する (Allow Auto Reissue Certificate)] オ プションが有効のままになることがある	33
	クライアントの PTD タスクが正常に完了した後も検出タスクが完了中 の状態のままになることがある	33

	クライアントが正常にリストアされても BMR リストアタスクが完了中の状態のまま変わらないことがある	33
	NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項	34
	NetBackup の操作上の注意事項	34
	NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	35
	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート	35
	NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	36
	ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある	36
	NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項	36
	状態 109 で CloudPoint プラグインの構成が失敗する	36
	NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	36
	NetBackup for VMware の操作上の注意事項	37
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	40
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	40
	SORT の新規インストールのための推奨手順	41
	SORT のアップグレードのための推奨手順	45
付録 B	NetBackup のインストール要件	48
	NetBackup のインストール要件について	48
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	50
	NetBackup 8.1.1 のバイナリサイズ	53
付録 C	NetBackup の互換性の要件	57
	NetBackup の互換性リストと情報について	57
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	58
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	60
	NetBackup の関連マニュアルについて	60
	NetBackup リリースノートについて	61
	NetBackup 管理者ガイドについて	61
	NetBackup オプションの管理について	61
	NetBackup データベースエージェントの管理について	64
	NetBackup のインストールマニュアルについて	65
	NetBackup の構成マニュアルについて	66
	NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて	66

その他の NetBackup のマニュアルについて 67

NetBackup 8.1.1 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.1.1 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)
- [NetBackup のサードパーティコンポーネントについて](#)

NetBackup 8.1.1 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.11 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 8.1.1 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正のいくつかは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 8.1.1 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.40 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.0 は NetBackup 8.0 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

NetBackup のサードパーティコンポーネントについて

次の表に、NetBackup 8.1.1 によってインストールされる最も有名なサードパーティコンポーネントの一部を示します。

表 1-1 NetBackup 8.1.1 のサードパーティコンポーネント

サードパーティ	バージョン
Java Runtime Environment (JRE)	<ul style="list-style-type: none"> ■ IBM AIX (rs6000) 8.0.5.0 ■ IBM zLinux 8.0.5.0 ■ HP-UX (hpie64) 8.0.5.0 ■ Linux (RedHat, SuSE) 8u151 ■ Solaris (sparc, x86) 8u151 ■ Microsoft Windows 8u151
libCURL	7.57.0
openssl	1.0.2n
Tomcat	8.5.24

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 8.1.1 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

p.8 の「[NetBackup 8.1.1 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.57 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 8.1.1 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 8.1.1 の新機能、変更点、および機能強化は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

新機能

- 「NetBackup 8.1.1 の新しい RESTful API」
- 「NetBackup と CloudPoint 間で統合されたスナップショットフレームワーク」

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 8.1.1 をインストールしたり 8.1 より前のリリースから 8.1.1 にアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

- 「安全な通信による Bare Metal Restore のサポート」

サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 8.1.1 のサポートの追加および変更点」
- 「複数の NetBackup 製品、機能、プラットフォームの End-of-Life」
- 「vSphere 5.1 のサポート終了」
- 「NetBackup サポートユーティリティ (nbsu) の更新」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」

システム要件の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 8.1.1 の IPv6 サポート情報」

クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1.1 にアップグレードする」
- 「NetBackup による Amazon Glacier ストレージクラスへのバックアップのサポート」
- 「NetBackup でのクラウド階層化によるバックアップのサポート」

データベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「Oracle インテリジェントポリシー (OIP) を使用する bpstart_notify および bpend_notify スクリプトのサポート」

その他の通知事項

- 「NetBackup 8.1.1 クライアントをリストアするための NetBackup Bare Metal Restore 機能がサポートされている」
- 「NetBackup 8.1.1 の MSDP の更新」
- 「NetBackup インストールへの Nutanix Acropolis Hypervisor プラグインおよび Hadoop プラグインの追加」
- 「ポリシーの指示句を構成する Enterprise Vault バージョンを選択するための依存関係の削除」

NetBackup 8.1.1 の新しい RESTful API

NetBackup のこのリリースには、一連の RESTful API が含まれています。これらの API は、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

NetBackup API は、API の構築に最も一般的に使用されている REST (Representational State Transfer) アーキテクチャで構築されています。この API は、HTTP プロトコルを使用して NetBackup と通信します。そのため、NetBackup API はクラウドベースのアプリケーションや、複数のプラットフォームおよびプログラミング言語で簡単に使用できます。API は、メッセージの要求と応答の形式に JSON (JavaScript Object Notation) を使用します。クライアントとサーバー間の通信には、HTTP の要求と応答の形式を使用します。API クライアント (ご使用のプログラム) は、HTTP プロトコルを使用して NetBackup サーバーに API 要求を行います。NetBackup サーバーは要求を処理します。サーバーは成功または失敗を示す適切な HTTP 状態コードをクライアントに返します。クライアントは、サーバーの応答から必要な情報を抽出します。

メモ: NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効になっている環境では、NetBackup API はサポートされません。

NetBackup 8.1.1 には次の API が搭載されています。

- NetBackup 認証 API
NetBackup 認証 API を使用すると、API 要求を行うときに使用する JSON Web トークン (JWT) で認証できます。JWT は、ログイン API 要求を実行すると取得できます。また、ログアウト API 要求を実行すると無効にできます。
- NetBackup 管理 API
NetBackup 管理 API を使用すると、NetBackup のジョブを管理できます。API により、特定のジョブの詳細を取得したり、フィルタ基準 (ジョブの再起動または再開、ジョブの一時停止、キャンセルまたは削除、ジョブのファイルリストの取得、ジョブのログの取得) に基づいてジョブのリストを取得できます。
- NetBackup カタログ API

NetBackup カタログ API を使用すると、NetBackup カタログにアクセスしてバックアップイメージに関する詳細を取得できます。API では、フィルタに基づいてバックアップイメージをリストに表示したり、特定のバックアップイメージ ID の詳細を取得できます。

- **NetBackup 構成 API**
NetBackup 構成 API を使用すると、NetBackup ホスト NetBackup ポリシー、WebSocket サーバー、VM サーバーのクレデンシャルを構成および管理できます。
- **NetBackup リカバリ API**
NetBackup リカバリ API を使用すると、VMware バックアップイメージからリカバリできます。API では、元の場所またはその他の場所に完全に VMware VM をリカバリできます。
- **NetBackup セキュリティ API**
NetBackup セキュリティ API を使用すると、NetBackup のセキュリティリソースにアクセスできます。この API は、認証トークン、ホスト ID に基づく証明書、セキュリティ構成オプションおよび監査を管理できます。

詳しくは、SORT で「NetBackup API Reference」を参照してください。この HTML マニュアルで、各 API とそのオプションの説明を参照してください。

メモ: マニュアルの「はじめに」のセクションを参照してください。

SORT で NetBackup 8.1.1 API リファレンスを検索するには

- 1 SORT ホームページの[ナレッジベース (KNOWLEDGE BASE)]で[文書 (Documents)]を選択します。
- 2 [表示する文書 (Show documents for)]のカテゴリで、次の値を選択します。
 - 製品 (Product): NetBackup
 - プラットフォーム (Platform): Windows および UNIX (Windows and UNIX)
 - マニュアルのカテゴリ (Document categories): すべて (All)
 - マニュアルの言語 (Document languages): すべて (All)
- 3 NetBackup 製品バージョンのリストから NetBackup 8.1.1 を見つけて、[製品マニュアル (Product guides)]を選択します。
- 4 「NetBackup 8.1.1 API Reference」を選択します。

NetBackup と CloudPoint 間で統合されたスナップショットフレームワーク

このリリースの NetBackup では、NetBackup と Veritas CloudPoint 製品間でフレームワークが統合されています。このフレームワークにより、NetBackup ではディスクアレイのスナップショットベースのデータ保護方法が多数サポートされます。

Veritasは、NetBackup リリースとは別に、サポート対象のハードウェアプラットフォームと CloudPoint のバージョンを追加します。近いうちに、「[NetBackup ハードウェア互換性リスト \(HCL\)](#)」にサポート対象のディスクアレイや CloudPoint のバージョンなど、統合スナップショット管理 (ISM) の情報を追加する予定です。

NetBackup と CloudPoint での統合スナップショットの管理 (ISM) について詳しくは、次のマニュアルでも参照できます。

- 『[NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド](#)』
- 『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』

安全な通信による Bare Metal Restore のサポート

Linux、Windows および Solaris プラットフォームの NetBackup 8.1.1 リリースでは、BMR (Bare Metal Restore) に安全な通信のサポートが導入されています。現在、NetBackup 8.1.1 は AIX および HP-UX プラットフォームでは Bare Metal Restore をサポートしていません。

BMR を行うには、NetBackup クライアントとマスターサーバー間で安全に通信するために、リカバリおよび検出環境でホスト ID に基づく証明書が必要です。リストアおよび検出操作時に BMR の構成を取得するには、ホスト ID に基づく証明書が必要です。

メモ: サポート対象のブートサーバー、クライアント、および SRT クライアントのバージョンについて詳しくは、BMR の安全な通信互換性の表を確認してください。『[NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド](#)』で、「Secure communication compatibility matrices for BMR for NetBackup 8.1.1 and later releases」を参照してください。

NetBackup BMR 8.1.1 では、自動リストア操作や[リストア準備 (PTR) (Prepare to Restore (PTR))]&[検出準備 (PTD) (Prepare to Discover (PTD))]を有効にした場合の操作に、新しい検証および制限が導入されました。[リストア準備 (PTR) (Prepare to Restore (PTR))]&[検出準備 (PTD) (Prepare to Discover (PTD))]の操作における検証チェックについて詳しくは、『[NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド](#)』で次のセクションを参照してください。

- クライアントのリストアの準備
- 構成の検出

検証が正常に完了すると、選択した NetBackup クライアントに自動リカバリまたは検出のマークが付けられます。自動リカバリを行うには、ホストの autoreissue パラメータが有効になっている必要があります。これにより、再発行トークンを要求せずに証明書をホストで配備できます。証明書の自動再発行の許可について詳しくは、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』の「証明書の自動再発行の許可または禁止」を参照してください。

リストアが正常に完了した後、リストアされたクライアント上にホスト ID ベースの証明書が自動的にコピーされます。自動リカバリに必要な `autoreissue` パラメータがリセットされます。

メモ: NetBackup 8.1.1 では、Windows クライアントの場合、仮想マシン (VM) の直接変換 (物理から仮想) 時にリストアが正常に完了した後、リストアされたクライアントで認証局 (CA) の証明書およびホスト ID ベースの証明書を手動で配備する必要があります。ホスト ID ベースの証明書を手動で配備する方法については、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』の「Deploying when a token is needed」を参照してください。

Windows プラットフォームのみで [汎用的な BMR (Bare Metal Restore) リストア (Generic Bare Metal Restore (BMR) Restore)] と [ハードウェアの汎用的な検出 (Generic Discovery of Hardware)] がサポートされている場合、NetBackup クライアントとマスターサーバー間で安全に通信するためにホスト ID ベースの証明書を取得できる再発行トークンを手動で作成する必要があります。認証局 (CA) のハッシュ証明書を検証することも必要です。再発行トークンを作成して認証局 (CA) のハッシュ証明書を検証する方法については、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』の次のセクションを参照してください。

- CA 証明書の指紋の検索と伝達
- 再発行トークンの作成

汎用的な BMR (Bare Metal Restore) リストアとハードウェアの汎用的な検出については、『[NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド](#)』を参照してください。

BMR 自動イメージレプリケーション (AIR) の BMR リストア設定では、ディザスタリカバリ (DR) ドメインのホストデータベースにホストを追加する必要があります。DR ドメインのホストデータベースのホストの追加方法については、『[NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド](#)』の「Adding a host in the host database of the DR domain」を参照してください。

NetBackup 8.1.1 のサポートの追加および変更点

メモ: これらのリストは変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、『[NetBackup マスター互換性リスト](#)』を参照してください。

NetBackup 8.1.1 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

- 次のデータベース:
 - MariaDB バージョン 5 および 10
 - PostgreSQL バージョン 9 および 10
 - SQLite バージョン 3

- IBM AIX 7.2 TL1 (NetBackup のマスターサーバーと BMR サーバー用)
- Microsoft SQL Server 2017
- Microsoft SQL 2012 SP4
- Microsoft Exchange 2016 CU7 および CU8
- Microsoft SharePoint 2010/2013/2016 (10 月 17 日 - 1 月 18 日 CU)
- Nutanix 5.1 仮想インフラストラクチャ
Nutanix 5.1 仮想インフラストラクチャのバックアップとリストア
- Oracle Linux 7.4
Oracle Linux 7.4 でのメディアサーバーとクライアントのサポート
- RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 6.9 および 7.4 (マスターサーバーとメディアサーバーの場合は x86-64)
- RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 6.9 および 7.4 (z/Architecture メディアサーバー)
- RHEL 6.9 および OEL (Oracle Enterprise) 6.9 でのメディアサーバーと BMR クライアントのサポート
- SAP ASE 16 SP3 (Solaris 用)
- SAP HANA 2.0 SP2 (RHEL および SUSE 用)
- SAP Oracle BR Tools 7.4
- 半期チャンネル
クライアントおよび Hyper-V (半期チャンネル)
- VMware VDDK 6.5.2
- VMware vCloud Director 9.0
- Windows Server 2016 (BMR クライアントと BMR ブートサーバー用)
このサポートについて詳しくは、次の記事を参照してください。
[Windows 2016 の NetBackup BMR のリストア時に ReFS ボリュームが存在すると ReFS 1.2 にダウングレードされる](#)

このリリースの NetBackup では、次のクラウドベンダーがサポートされるようになりました。

- ACP Cloud Storage CS3
- Alibaba Cloud OSS (Object Storage Service)
- China Telecom Cloud OOS S3
- EMC Elastic Cloud Storage (S3)
- FUJITSU Storage ETERNUS - CD10000 ハイパースケールストレージシステム

- Huawei OBS - Huawei OBS オブジェクトストレージサービス
- IBM Cloud Object Storage S3 (ローカルネットワーク用)
- IBM Cloud Object Storage (広域ネットワーク (WAN) 用)
- NetApp StorageGRID Webscale - WAN
エンタープライズグレードオブジェクトストレージ (ハイブリッドクラウド用) WAN 用に最適化された設定
- Open Telekom Cloud OBS
クラウドオブジェクトストレージサービス
- Oracle S3 Storage Cloud サービス
- Quantum Lattus - オブジェクトストレージ
- Red Hat Ceph Storage - ソフトウェア定義ストレージ、オンプレミスおよびクラウド
- Scality RING - LAN
LAN 用に最適化された Scality S3 オンプレミスオブジェクトとクラウドストレージ
- Scality RING - WAN
マルチサイト用に最適化された Scality S3 のマルチクラウドストレージ
- SUSE Enterprise Storage
ソフトウェア定義ストレージのソリューション
- Veritas Access
スケールアウト型ソフトウェア定義ストレージ

NetBackup 8.1.1 以降、次の製品およびサービスはサポートされなくなります。

- Windows Server 2008 での Windows Server フェールオーバークラスタ (WSFC)
サポート対象の製品およびサービスについて詳しくは、次を参照してください。
p.57 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

複数の NetBackup 製品、機能、プラットフォームの End-of-Life

NetBackup の次回リリース以降、次の機能、OS、およびデータベースプラットフォームのサポートは廃止されます。

- NetBackup のマスターまたはメディアサーバープラットフォームとしての Hewlett Packard Enterprise HP-UX (全バージョン)
- NetBackup のマスターまたはメディアサーバープラットフォームとしての IBM AIX (全バージョン)
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.7 以前
- CentOS 6.7 以前

- Oracle Linux 6.7 以前
- 次のクラウドコネクタ:
 - AT&T (Atmos API ベースのコネクタ)
 - ラックスペース (Swift API ベースのコネクタ)

このリストは変更されることがあります。詳細で最新の NetBackup 終了期限 (EOL) 情報は、[SORT](#) に記載されています。現在サポートされている機能やプラットフォームのリストについては、[NetBackup マスター互換性リスト](#)もご確認ください。

End-of-Life 通知に関する全般的な情報も入手できます。

p.58 の「[NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)」を参照してください。

vSphere 5.1 のサポート終了

NetBackup 8.1 リリース以降、NetBackup は VMware vSphere 5.1、5.1 U1、5.1 U2、および 5.1 U3 をサポートしません。サポートの追加および変更に関する最新情報については、[NetBackup マスター互換性リスト](#)を参照してください。

NetBackup サポートユーティリティ (nbsu) の更新

NetBackup 8.1.1 では、NetBackup サポートユーティリティ (nbsu) が更新されました。以前のバージョンの nbsu (old_nbsu に名前変更) は非推奨で、今後の NetBackup リリースで削除される予定です。新しいバージョン (nbsu) を使用することをお勧めします。

nbsu の新しいバージョンに関する詳細情報は、次のガイドに記載されています。

『[NetBackup コマンドガイド](#)』

『[NetBackup トラブルシューティングガイド](#)』

将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- bp.kill_all
- bpdwn
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』で発表されます。

NetBackup 8.1.1 の IPv6 サポート情報

NetBackup は、ホスト名を指定できる場合に、IPv6 アドレス (例: 2001:db8:85a3:8d3:1319:8a2e:370:7348) の使用をサポートしません。ホスト名が必要で、ホスト名が DNS、ローカルの hosts ファイル、またはその他の手段で IPv6 アドレスに解決できる場合でも、NetBackup は IPv6 アドレスの使用をサポートしません。このルールは、ホスト名が DNS、ローカルの hosts ファイル、またはその他の手段で IPv6 アドレスに解決できる場合でも当てはまりません。NetBackup のすべてのコマンドとオプションが IPv6 アドレスを受け付けるわけではありません。特定のコマンドの IPv6 サポートについて詳しくは、リリース 8.1.1 の『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

メモ: IPv6 のサポート制限事項について詳しくは、次の記事を参照してください。
NetBackup 環境で IPv6 を構成する前に確認する必要がある重要な注意事項と推奨事項が掲載されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100041420

インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1.1 にアップグレードする

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 8.1.1 をインストールするかまたはそのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup マスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 8.1.1 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

ベリタスはリリース間にもクラウド構成ファイルへの新しいクラウドサポートを継続的に追加します。NetBackup 8.1.1 の最終ビルドに含まれるクラウドストレージサポートは、クラウド構成パッケージのバージョン 2.3.2 に含まれるものと同じです。

クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.3.3 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。バージョン 2.3.3 には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 8.1.1 の最終ビルドには含まれていません。

- Deutsche Telekom Open Telekom Cloud (S3) - デフォルトの URL 形式を変更
- IBM Cloud Object Storage (S3) - Cold ストレージクラス
- IBM Cloud Object Storage (S3) - Flex ストレージクラス
- IBM Cloud Object Storage (S3) - EU Cross Region
- IBM Cloud Object Storage (S3) - EU South Region
- IBM Cloud Object Storage (S3) - Standard ストレージクラス
- IBM Cloud Object Storage (S3) - US Cross Region

- IBM Cloud Object Storage (S3) - US East Region
- IBM Cloud Object Storage (S3) - Vault ストレージクラス
- Iron Mountain Iron Cloud (S3)
- NetApp StorageGRID (S3) - LAN
- NetApp StorageGRID (S3) - WAN 用にデフォルトの URL 形式を変更
- NooBaa (S3)
- Oracle Cloud Infrastructure (S3)

最新のクラウド構成パッケージについては、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100033434

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100039095

NetBackup による Amazon Glacier ストレージクラスへのバックアップのサポート

バージョン 8.1.1 以降、NetBackup は Amazon Glacier ストレージクラスへのバックアップをサポートします。NetBackup を使用して AWS (Amazon) Glacier にデータをバックアップすることで、長期保存用データを保護することができます。詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup でのクラウド階層化によるバックアップのサポート

クラウド階層化を構成して、STANDARD、STANDARD_IA、または GLACIER ストレージクラスにデータをバックアップできます。これは、各ストレージクラスでのデータ保存日数を設定することで行えます。詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

Oracle インテリジェントポリシー (OIP) を使用する bpstart_notify および bpend_notify スクリプトのサポート

Oracle インテリジェントポリシー (OIP) を使用する bpstart_notify および bpend_notify スクリプトのサポートが追加されました。これらのスクリプトのサポートは、OIP ポリシー以外には適用されません。詳しくは、『NetBackup for Oracle 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup 8.1.1 クライアントをリストアするための NetBackup Bare Metal Restore 機能がサポートされている

NetBackup 8.1.1 リリースでは、NetBackup 8.1.1 がインストールされたクライアントをリストアするための NetBackup Bare Metal Restore 機能が Windows、Linux、および Solaris プラットフォームでサポートされています。

メモ: NetBackup バージョン 8.1.1 がインストールされているクライアントの場合、NetBackup は現在 AIX および HP-UX 環境での BMR リストア操作をサポートしていません。

NetBackup Bare Metal Restore 機能は、NetBackup バージョン 8.1 がインストールされているクライアントのリストアではサポートされません。ただし、Bare Metal Restore を使用して、NetBackup バージョン 8.0 以前がインストールされているクライアントをリストアすることは引き続き可能です。8.0 以前のクライアントのリストアでは、8.0 以前のバージョンのクライアントを含む共有リソースツリー (SRT) を使用することをお勧めします。

NetBackup 8.1.1 の MSDP の更新

NetBackup 8.1.1 では、次の MSDP の拡張機能が導入されています。

- FIPS 検証済みの MSDP
MSDP は、FIPS (Federal Information Processing Standard) で検証され、FIPS モードで運用できるようになりました。
- KMS サービスを使用した MSDP 暗号化
キー管理サーバー (KMS) と MSDP が統合されています。KMS は、MSDP のデータパスを安全に保護するマスターサーバーベースの対称キー管理サービスです。MSDP のデータを暗号化するため、NetBackup KMS から顧客キーが取得されません。
- 固定長の重複排除と可変長の重複排除
固定長の重複排除または可変長の重複排除を選択できるようになりました。可変長の重複排除では、NetBackup はデータの処理、サイズ境界の計算、可変サイズのデータのセグメント化を行います。各データセグメントには一意の ID が割り当てられます。NetBackup は、同じ ID のデータセグメントがあるかどうかをインテリジェントに評価して、バックアップを再び作成するかどうかを判断します。可変長の重複排除により、重複排除率を高め、バックアップストレージを縮小し、バックアップのパフォーマンスを上げてデータ保護にかかるコスト全体を削減できます。

更新について詳しくは、『[NetBackup Deduplication ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup インストールへの Nutanix Acropolis Hypervisor プラグインおよび Hadoop プラグインの追加

NetBackup バージョン 8.1.1 以降、Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) プラグインと Hadoop プラグインが NetBackup インストールの一部としてインストールされます。環境によっては、必要なプラグインのみ設定できます。

詳しくは、次を参照してください。

[『NetBackup for Nutanix Acropolis Hypervisor 管理者ガイド』](#)

[『NetBackup for Hadoop 管理者ガイド』](#)

ポリシーの指示句を構成する Enterprise Vault バージョンを選択するための依存関係の削除

NetBackup 8.1.1 以降、ポリシーの指示句を構成する Enterprise Vault バージョンを選択するための依存関係は削除されます。詳しくは、[『NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド』](#)を参照してください。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.1.1 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 8.1.1 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』ま

たはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

p.60 の「[NetBackup の関連マニュアルについて](#)」を参照してください。

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 8.1.1 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェースウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないことを Veritas が推奨します。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。『NetBackup インストールガイド』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが中止されます。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての swremove と swinstall コマンドに追加されます。

インストール時に IPv6 のみを使用する NetBackup 8.1.1 マスターサーバーと 8.1 のデュアルスタックホスト間の Web サービス接続が確立されない

NetBackup マスターサーバーが、IPv6 のみを使用する構成の 8.1.1 (または 8.1) バージョンの場合に、デュアルスタック構成のホストに NetBackup 8.1 のソフトウェアをインストールすると、ホスト間の Web サービス接続が確立されません。この問題により、NetBackup のインストール時に 8.1 のホストにホスト ID ベースの証明書が配備されません。

回避策: インストール後に、8.1 のホストにホスト ID に基づく証明書を手動で配備します。次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127129

AIX 7.1 で起きる可能性がある Java エラー

AIX 7.1 で、インストールプログラムに次のメッセージが表示される場合があります。

```
WARNING: Installation of Java LiveUpdate agent failed.  
Refer to file /tmp/JLU-Log/JavaLiveUpdate-Install.log on bmraix57 for more information.
```

このメッセージが表示された場合は、次の **Java** コマンドを実行して、エラー出力を確認してください。

```
# /usr/opensv/java/jre/bin/java  
Error: Port Library failed to initialize: -125  
Error: Could not create the Java Virtual Machine.  
Error: A fatal exception has occurred. Program will exit.
```

このエラー出力が生成された場合は、次の **IBM** のサポート記事を参照して問題を解決してください。

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg11V12285>

メモ: 他のエラーが原因で警告メッセージが表示されている可能性があります。Java コマンドの出力内容によって、IBM の修正プログラムによって問題が解決するかどうかを判断できます。

HP-UX 11.31 IA64 でピュア IPv6 が有効になっているクライアントでインストールが失敗する

HP-UX 11.31 IA64 プラットフォームでピュア IPv6 が有効になっているクライアントでは NetBackup 8.1.1 のインストールが失敗します。インストールが失敗するのは、swlist

や `swinstall` などの HP-UX コマンドがピュア IPv6 モードでサポートされないためです。

回避方法:

NetBackup 8.1.1 を HP-UX プラットフォームのクライアントにインストールするときに、IPv4 と IPv6 を有効化または構成します。

または

NetBackup 8.1.1 をインストールする前に、次の手順を実行してデフォルト値を編集します。

- 1 次のファイルを開きます。

```
/var/adm/sw/defaults
```

- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
rpc_binding_info=ncacn_ipv6_tcp:[2121] ncadg_ipv6_udp:[2121]
```

- 3 ファイルを保存して閉じます。

- 4 次のコマンドを使用して、停止した後に `swagentd` を起動します。

```
swagentd -k  
swagentd
```

- 5 次のファイルを開きます。

```
/${HOME}/.swdefaults
```

- 6 ファイルに次のエントリを追加します。

```
rpc_binding_info=ncacn_ipv6_tcp:[2121] ncadg_ipv6_udp:[2121]
```

- 7 ファイルを保存して閉じます。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.1.1 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項

NetBackup の次の制限事項は、IPv6 アドレスがクライアント名またはイメージ名として使われている場合に当てはまる場合があります。

- ポリシーでクライアント名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。この場合は、バックアップに失敗する可能性があります。IPv6 アドレスの代わりにホスト名を指定してください。イメージ名は NetBackup で自動的に作成され、クライアント名とタイムスタンプの組み合わせで構成されます。クライアント名がポリシー内で IPv6 アドレスとして構成されていると、IPv6 アドレスが含まれているイメージ名が (イメージカタログに) 生成されます。この場合は、バックアップに失敗します。
- カタログでイメージ名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。

IPv6 のみを使用する NetBackup マスターサーバーとデュアルスタックホストにおける接続のタイムアウトの問題

NetBackup マスターサーバーで IPv6 のみを使用し、メディアサーバー (クライアントホスト) でデュアルスタックを使用する IP アドレスの混在環境で、マスターサーバーとメディアサーバー (クライアントホスト) 間の接続がタイムアウトします。これにより、安全な通信に関するピアホストの検証がタイムアウトする問題が発生する場合があります。

bptestnetconn -w -H <IPv6 のみを使用するマスターサーバー名> コマンドは、接続に時間がかかり、実行するまでに 120 秒を超える場合もあります。

次のエラーメッセージが表示されます。

bptestnetconn -w -H <IPv6 のみを使用するマスターサーバー名> をメディアホストまたはクライアントホストで実行すると、マスターサーバーに接続するまでに時間がかかります。

nbutils vxul デバッグログエントリに、次のよう出力されます。

```
Connecting to [10.210.71.166]:[1556]..,35:nbcInt_curl_prefnet::helper_connect,5
NON-Blocking connect in progress. Watch WRITE.,35:nbcInt_curl_prefnet::helper_connect,5
New sockfd is [5]..,35:nbcInt_curl_prefnet::helper_connect,5
Returning VN_STATUS_SUCCESS,35:nbcInt_curl_prefnet::helper_connect,5
Returning VN_STATUS_SUCCESS,42:nbcInt_curl_prefnet::tryeach_iface_connect,5
Returning rc,49:nbcInt_curl_prefnet::establish_initial_connection,5
Returning VN_STATUS_SUCCESS,33:nbcInt_curl_prefnet::nbio_connect,5
RC [0] STAT [-1] MAXFD [5] TIMEOUT [150]..,32:nbcInt_curl_prefnet::bio_connect,5
Non-blocking connect attempt failed. errno=[110]=[Connection timed out],48:
  nbcInt_curl_prefnet::helper_check_connect_status,1
:For host [pdqeb126vml2.pne.ven.veritas.com] already tried connecting to [10.210.71.166],
```

```
now trying[2620:128:f0a1:9006::167].,39:nbclnt_curl_prefnet::iterate_next_iface,5
[vnet_addrinfo.c:9125] vnet_configured_stacks(), remote_ipv4_supported flag:
  1 0x1,20:vnet_adjusted_family,1
[vnet_addrinfo.c:9126] vnet_configured_stacks(), remote_ipv6_supported flag:
  1 0x1,20:vnet_adjusted_family,1
[vnet_addrinfo.c:5173] using interface ANY,27:vnet_get_pref_netconnection,4
Returning VN_STATUS_SUCCESS,44:nbclnt_curl_prefnet::usable_prefnet_settings,5
Returning VN_STATUS_SUCCESS,39:nbclnt_curl_prefnet::iterate_next_iface,5
Connecting to [2620:128:f0a1:9006::167]:[1556].,35:nbclnt_curl_prefnet::helper_connect,5
```

IPv6 のみを使用するマスターサーバーの DNS の参照では、IPv6 アドレスのみではなく、IPv4 と IPv6 の 2 つの IP アドレスで参照されます。マスターサーバーをデュアルスタックモードに設定すると、この問題が発生する可能性があります。メディアサーバー (クライアントホスト) とマスターサーバーデーモン間の接続を確立するときに、VNET API は IP アドレスをソートします。まず、bp.conf ファイルで IP アドレスファミリーセットに関係なくすべての IPv4 アドレスをソートしてから IPv6 アドレスがソートされます。そのため、メディアサーバー (クライアントホスト) は最初に IPv4 アドレスで接続しようとしませんが、マスターサーバーは IPv6 のみを使用しているためタイムアウトするので、IPv6 アドレスで接続を試みます。ただし、最終的には IPv6 による接続が成功する前にピアホストの検証操作がタイムアウトします。

回避策: IPv4 (IPv6 のみを使用するマスターサーバーでは使用できない IP アドレス) の接続を試行しないように、接続を開始するメディアサーバー (クライアントホスト) の bp.conf ファイルで PREFERRED_NETWORK を設定します。PREFERRED_NETWORK パラメータは次のように設定します。

```
PREFERRED_NETWORK = <IPv4 アドレスのみを使用するマスターサーバー> PROHIBITED
```

SLAAC 構成が原因で NetBackup のホスト通信が失敗する

SLAAC (Stateless Autoconfiguration) の場合、静的 IP アドレスに加え、自動構成された IPv6 アドレスが NetBackup ホストに割り当てられます。自動構成された IP アドレスが DNS に追加されない状態で、NetBackup ホストがその IP アドレスを使用して別の NetBackup ホストと通信すると、受信側のホストが接続を拒否する場合があります。この問題が原因で、証明書の配備が失敗することがあります。

回避方法: NetBackup ホストで SLAAC を無効にします。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックで

は、NetBackup 8.1.1 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.57 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

- NetBackup 管理コンソール
- リモート管理コンソール
- デバイス管理用の文字ベースのメニューインターフェイス
- コマンドライン

リモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、「操作がタイムアウトしました」というメッセージが表示される

NetBackup のリモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、次の警告メッセージが表示されます。

```
The operation timed out. The operation has exceeded the time out limit, though service or daemon may still be processing the request.
```

この警告は、NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT のデフォルト値が必要な値を下回っているために表示されます。ただし、[OK]をクリックしてもポリシーにはまだアクセスできません。

回避策: NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT 値を変更します。

- 変更前:

```
SET NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT=60
```
- 変更後:

```
SET NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT=300
```

変更が完了したら、NetBackup のリモート管理コンソールを再起動します。ポリシーが最大 5 分 (300 秒) 以内にロードされます。

NetBackup のリモート管理コンソールの構成オプションの設定について詳しくは、NetBackup 8.1.1 の『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブラリ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: runInstaller を実行する前に `export LD_BIND_NOW=1` コマンドを実行します。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する

次の問題は、ログオン ダイアログで指定されているホスト上の 1 つ以上の NetBackup サービスまたはデーモンが実行されていない場合に発生します。

- 機能の低下 (たとえば、バックアップ、アーカイブ、リストアのコンポーネントのみが利用可能)
- NetBackup 管理コンソールの初期化中に [接続できません (Cannot Connect)] エラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項

NetBackup アクセラレータは、完全バックアップを高速化します。高速化は、クライアント上の変更検出技術によって実現しています。クライアントは、この変更検出技術とクライアントの最新のファイルシステムを使って、前回のバックアップ以降発生した変更を特定します。このトピックでは、NetBackup アクセラレータ バージョン 8.1.1 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントサーバーの Accelerator バージョンの必要条件

NetBackup アクセラレータは、マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントサーバーが NetBackup 7.5 以上であることを必要とします。NetBackup アプライアンスメディアサーバーはアクセラレータサポートのために NetBackup アプライアンス 2.5 以上を必要とします。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 8.1.1 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup 8.0 以前のクライアントがある AIX および HP-UX プラットフォーム上で NetBackup 8.1 または 8.1.1 を BMR ブートサーバーとして使用して SRT を作成すると失敗する場合がある

NetBackup 8.0 以前のクライアントがある AIX および HP-UX プラットフォーム上で NetBackup 8.1 または NetBackup 8.1.1 を BMR ブートサーバーとして使用して共有リソースツリー (SRT) を作成しようとする、SRT の作成操作は失敗してエラーメッセージが返されます。

回避方法: AIX および HP-UX プラットフォーム上の BMR ブートサーバーは、NetBackup 8.1 または NetBackup 8.1.1 にアップグレードしないことをお勧めします。

ユーザーが BMR 操作をクリーンアップした後もクライアントの [証明書 の自動再発行を許可する (Allow Auto Reissue Certificate)] オプション が有効のままになることがある

BMR の PTR (Prepare To Restore) 操作または PTD (Prepare To Discover) 操作を実行する際、選択したクライアントが安全な場合は [証明書の自動再発行を許可する (Allow Auto Reissue Certificate)] オプションが有効になります。このオプションは、BMR のリストアまたは検出タスクをクリーンアップした後も有効のままになります。

回避方法: BMR タスクのクリーンアップ後または中止後に、選択したクライアントの [証明書の自動再発行を許可する (Allow Auto Reissue Certificate)] オプションが有効になっていることを確認します。選択したクライアントに対してこのオプションを無効にするには、NetBackup 管理コンソールまたはコマンドラインインターフェースを使用します。

詳しくは、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』の「証明書の自動再発行の許可または禁止」を参照してください。

クライアントの PTD タスクが正常に完了した後も検出タスクが完了中の状態のままになることがある

Solaris クライアントでは、クライアントの PTD (Prepare to Discover) タスクが正常に完了した後も、[Bare Metal Restore の管理 (Bare Metal Restore Management)] > [BMR タスク (BMR Tasks)] タブで発見タスクの状態が [完了しています (Finalizing)] と表示される場合があります。

回避方法: タスクの状態を更新するか、タスクを手動で削除します。タスクの状態を手動で更新するには、ターゲットクライアントのマスターサーバーで次のコマンドを実行します。

```
bmrc -op complete -resource discovertask -client <clientName> -status  
0
```

クライアントが正常にリストアされても BMR リストアタスクが完了中の状態のまま変わらないことがある

クライアントの BMR (Bare Metal Restore) リストアタスクが正常に完了しても、[Bare Metal Restore の管理 (Bare Metal Restore Management)] > [BMR タスク (BMR Tasks)] タブでタスクの状態が [完了しています (Finalizing)] と表示される場合があります。実行するために構成されている外部プロシージャが、初回ブート時またはクリーンアップ時に実行されていない可能性があります。

回避策: クライアントが正常にリストアされている場合は、次の手順を実行します。

- 1 リストアしたクライアントで、コマンドプロンプトまたはシェルを開きます。
- 2 リストアしたクライアントのオペレーティングシステムに基づいて、コマンドプロンプトまたはシェルで適切なディレクトリに移動します。

- リストアしたクライアントで **Linux** を実行している場合は、次の場所に移動します。
<インストールディレクトリ>/netbackup/bin
 - リストアしたクライアントで **Windows** を実行している場合は、次の場所に移動します。
<インストールディレクトリ>%netbackup%bin
- 3 次のコマンドの <クライアント名> に正しいクライアントホスト名を入力して実行します。
- ```
bmrc -op complete -resource restoretask -client <クライアント名>
-status 0
```
- 4 初回ブート時またはクリーンアップ時に外部プロシージャを実行する設定になっている場合は、リストアしたクライアントで外部プロシージャを手動で実行します。

## NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup には、Oracle、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server といったさまざまなデータベースやアプリケーション技術を保護するためのいくつかの方法が用意されています。このトピックでは、NetBackup 8.1.1 のデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### NetBackup の操作上の注意事項

NetBackup for SharePoint Server は、NetBackup の機能を拡張して、SharePoint データベースのオンラインバックアップとリストアを実行可能にしています。この項では、NetBackup 8.1.1 の NetBackup for SharePoint に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

#### SharePoint データベースオブジェクトのパスが Windows のパスの最大長を超えている場合に SharePoint の GRT バックアップが失敗する

SharePoint データベースオブジェクトのパスが Windows パスの最大長を超えている場合は、SharePoint の GRT (Granular Recovery Technology) バックアップが失敗します。

GRT バックアップ時に、SharePoint データベースオブジェクトが一時的にフォルダ階層内のファイルとして保存されます。このフォルダの名前は、NetBackup 一時ディレクトリのパスに含まれる SQL Server ホスト名、バックアップイメージ ID、およびコンテンツデータベース名から成ります。この組み合わせのパスが Windows パスの最大長を超えないようにしてください。詳しくは、次の Microsoft 社の記事を参照してください。

[https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa365247\(v=vs.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa365247(v=vs.85).aspx)

Windows パスの長さ制限を超えると、SharePoint の GRT バックアップ結果の取得でエラーが発生する可能性があります。

回避策: コンテンツデータベース名と前述の他の項目を合わせて Windows パスの最大長を超えていないことを確認します。

## NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 8.1.1 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:  
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:  
データファイルパス、表領域名
- SAP:  
英語の SAP がローカライズされた OS 上で動作します (特定の SAP フィールドがローカライズされることはありません)。
- Exchange:  
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:  
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:  
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:  
ボルトストア、パーティション、データ
- VMware:  
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

## NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 8.1.1 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

## NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジーに依存します。この項では、NetBackup 8.1.1 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### 状態 109 で CloudPoint プラグインの構成が失敗する

CloudPoint プラグインの構成が状態 109 で失敗します。このエラーは無視しても問題ありません。構成する CloudPoint プラグインは、NetBackup または CloudPoint ですすでに構成されています。

## NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.1.1 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 8.1.1 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### NetBackup が nbd または nbdssl トランスポートモードを使用して VMware IPv6 ESXi サーバーに直接接続できない

NetBackup は、ピュア IPv6 ESXi サーバーに対し、nbd または nbdssl の直接接続を確立できません。この制限は、NetBackup で構成されている ESXi のクレデンシャルに対してのみ発生します。

この問題は VMware の既知の問題です。詳しくは、Virtual Disk Development Kit 6.5 のリリースノートに記載されている、既知の問題と回避方法に関するセクションを参照してください。次のサイトから入手できます。

[VDDK for vSphere 6.5](#)

---

**メモ:** この問題は、ホットアドおよび SAN トランスポートモードには影響しません。また、この問題は、IPv6 vCenter (および vCenter のクレデンシャル) を使用して確立された NetBackup 接続にも影響しません。

---

### 成功したバックアップイベントを右クリックしても vSphere Web Client 用の NetBackup プラグインで VM のリカバリを開始できない

vSphere Web Client 用の NetBackup プラグインには、VM リカバリの複数の開始方法が用意されています。次の方法では、GUI の問題によりリカバリが開始されません。

- 1 vSphere Web Client の [ホストとクラスター (Hosts and Clusters)] の [監視 (Monitor)] > [Veritas NetBackup] タブで [イベント (Events)]、[バックアップの成功 (Backup Successful)] の順に選択し、成功したバックアップを右クリックして [リカバリ (Recover)] を選択します。
- 2 リカバリウィザードの [仮想マシンオプション (Virtual Machine Options)] 画面で、2 つのリストアオプションが無効になっています。そのため、リカバリを開始するウィザードでの操作を完了することができません。

次の方法のいずれかを使用するとウィザードを完了できます。

- [ホーム (Home)] で [Veritas NetBackup] をクリックして、[リカバリウィザード (Recovery Wizard)] をクリックします。

- または、[仮想マシン (Virtual Machines)] ペインで VM を右クリックして [Veritas NetBackup]、[リカバリウィザード (Recovery Wizard)] の順に選択します。

---

メモ: この問題は、プラグインの [インスタントリカバリウィザード (Instant Recovery Wizard)] には影響しません。

---

## NetBackup アプライアンスを使用した NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client のインストール

NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client のインストールに関する次の情報が、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』から削除されました。

マスターサーバーとして NetBackup アプライアンスから NetBackup プラグインをインストールするには

- ◆ NetBackupCLI ユーザーとしてアプライアンスにログオンして、`wvcp_manage` コマンドを実行してプラグインをインストールします。

たとえば、`vcenter_server.example.com` にプラグインをインストールする方法は次のとおりです。

```
wvcp_manage --register -v vcenter_server.example.com -u
vcenter_username -p password
```

プラグインをアンインストールする方法は次のとおりです。

```
wvcp_manage --unregister -v vcenter_server.example.com -u
vcenter_username -p password
```

## 前回の完全バックアップが期限切れになると VMware のブロックレベルの増分バックアップも期限切れになる

仮想マシンの NetBackup VMware ブロックレベルの増分バックアップは、同じポリシーを使用して作成した同じ VM の以前の完全バックアップによって決まります。VMware の完全バックアップが期限切れになると、完全バックアップに基づくその後の VM ブロックレベルの増分バックアップも期限が切れて削除されます。この期限切れは、増分スケジュールの保持期間に関係なく発生します。この問題は、すべてのバージョンの NetBackup for VMware に該当します。

---

メモ: この問題は、NetBackup アクセラレータのバックアップには該当しません。

---

## NetBackup にリストア ESX サーバーのクレデンシャルがあるときに、VM の vCenter へのリストアが失敗する

NetBackup の [VMware リストア ESX サーバー (VMware Restore ESX Server)] オプション ([メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)], [クレデンシャル (Credentials)], [仮想マシンサーバー (Virtual Machine Servers)] の下) を使用すると、特定の ESXi サーバーが VM リストアのデータを移動できます。リストア先が (ESXi サーバーではなく) vCenter である場合、状態 2820「NetBackup VMware ポリシーリストアエラー」でリストアが失敗します。VM はリストアされますが、NetBackup は VM のスナップショットに戻れず、そのスナップショットを削除できません。

この問題を修正するため、NetBackup 8.1 緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) を使用できます。

回避策としては、vSphere インターフェースを使用して、リストアされる VM のスナップショットに戻りスナップショットを削除できます。

### VM のスナップショットに戻ってこれを削除するには

- 1 vSphere Web Client 6.0 でリストアする VM を右クリックして、[スナップショット (Snapshots)], [最新のスナップショットに戻る (Revert to Latest Snapshot)] の順に選択します。
- 2 もう一度 VM を右クリックして、[スナップショット (Snapshots)], [スナップショットの管理 (Manage Snapshots)] の順に選択します。[VM スナップショットの管理 (Manage VM Snapshots)] ダイアログを使用してスナップショットを削除します。

お使いのバージョンの vSphere とスナップショットを削除する方法については、VMware のマニュアルを参照してください。

# NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

## Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト  
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。



- **Hotfix と EEB Release Auditor**  
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**  
このツールを使うと、システムとベリタスエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**  
このツールを使用すると、今後新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後置き換えられることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、他社製品の統合、ベリタス製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

## SORT の新規インストールのための推奨手順

ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-1

| 手順                                    | 詳細                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SORT Web ページに Veritas Account を作成します。 | p.42 の「 <a href="#">SORT ページに Veritas Account を作成する方法</a> 」を参照してください。                                                                                           |
| 汎用インストールレポートを作成します。                   | p.42 の「 <a href="#">汎用インストールチェックリストを作成する方法</a> 」を参照してください。                                                                                                      |
| システム固有のインストールレポートを作成します。              | p.43 の「 <a href="#">システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)</a> 」を参照してください。<br>p.44 の「 <a href="#">システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)</a> 」を参照してください。 |

## SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email address) 電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

## 汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけて選択します。

### 3 要求された情報を指定します

|                                                                                 |                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 製品 (Product)                                                                    | ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。<br>NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。 |
| インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to) | NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。                                                      |
| プラットフォーム (Platform)                                                             | 生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。                                                                     |
| プロセッサ (Processor)                                                               | チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。                                                                           |
| アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))       | 新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。                               |

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。NetBackup では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

#### システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。

3 [データコレクタ (Data Collectors)]タブを選択します

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。  
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

#### システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。  
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。  
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。

**6** 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかをチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。

**7** 要求されたら、Enter キーを押して続行します。**8** メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。**9** [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。

**10** レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

**11** インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。**12** インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

**13** ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。**14** タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。ベリタスはフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

## SORT のアップグレードのための推奨手順

ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-2

| 手順                                      | 詳細                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SORT Web ページに Veritas Account を作成します。   | p.42 の「 <a href="#">SORT ページに Veritas Account を作成する方法</a> 」を参照してください。                                                                                           |
| システム固有のアップグレードレポートを作成します。               | p.43 の「 <a href="#">システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)</a> 」を参照してください。<br>p.44 の「 <a href="#">システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)</a> 」を参照してください。 |
| 今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。                | p.46 の「 <a href="#">今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法</a> 」を参照してください。                                                                                                 |
| Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。 | p.46 の「 <a href="#">Hotfix と EEB の情報を確認する方法</a> 」を参照してください。                                                                                                     |

#### 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:  
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

#### Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:  
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

- 4 [検索 (Search)]をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

|                                                |                                      |
|------------------------------------------------|--------------------------------------|
| EEB 識別子の Hotfix<br>(Hot fix of EEB Identifier) | 前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。  |
| 説明 (Description)                               | Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。 |
| 解決済みのバージョン<br>(Resolved in Versions)           | この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。   |

# NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 8.1.1 のバイナリサイズ](#)

## NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackupリリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストールに関する詳細な説明は、『NetBackup インストールガイド』、『NetBackup アップグレードガイド』、『NetBackup スタートガイド』に記載されています。

p.25 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 8.1.1 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含む



ファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納の詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

---

**メモ:** この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

---

- マスターサーバーとメディアサーバーでは、**NetBackup** を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を **8000** にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響については、ベリタスのサポート Web サイトの次の **TechNote** を参照してください。  
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- **Windows 2008、Vista、2008 R2** の **UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、**UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールできません。  
管理者グループのユーザーが **NetBackup** をインストールできるようにするには、**UAC** を無効化します。
- **NetBackup** のマスターサーバーとメディアサーバーは、起動時および **24** 時間ごとに **NetBackup** サーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは **vmd** サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- メディアサーバーのアップグレードの実行中は、マスターサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは **gzip** を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには **gunzip** と **gzip** が必要なので、**NetBackup** をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。**HP-UX** を除くすべての **UNIX** プラットフォームでは、パイナリは **/bin** または **/usr/bin** に存在し、このディレクトリが **root** ユーザーの **PATH** 変数に含まれていると想定されています。**HP-UX** システムでは、**gzip** コマンドおよび **gunzip** コマンドは **/usr/contrib/bin** に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、**PATH** 変数にこのディレクトリが追加されます。**UNIX** でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

# NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup の互換性リストにリストされるオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、ベリタス社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 は、NetBackup 8.1.1 で必要な OS 更新およびパッチを示しています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 8.1.1 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必要な OS パッチ情報は、Veritas Services and Operational Readiness Tools (SORT) Web サイトおよび NetBackup 互換性リストで確認できます。

p.57 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.40 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

---

**メモ:** OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わるより最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。ここおよび SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると考えする必要があります。表 B-1 にリストされているものに優先されるまたはそれらに置き換わる OS 更新、パッチ、またはパッチバンドルは、特に指定されていないかぎりサポートされます。ベリタス社は、個別の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

---

**メモ:** 表 B-1 に記載されている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールする必要があります。

---

表 B-1 NetBackup 8.1.1 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

| オペレーティングシステムの種類とバージョン              | NetBackup の役割    | パッチ                                                  | 注意事項                                                                     |
|------------------------------------|------------------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| AIX 6.1                            | マスター、メディア、クライアント | AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降                            | ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降である必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要がある場合があります。 |
| Beijing Linx Software Corp Linx OS | マスター、メディア、クライアント | カーネル 2.6.32.26 以降                                    |                                                                          |
| CentOS 6.x                         | マスター、メディア、クライアント | カーネル 2.6.32-608.el6 以降                               |                                                                          |
| CentOS 7.x                         | マスター、メディア、クライアント | カーネル 3.10.0-241.el7 以降                               |                                                                          |
| Debian 8                           | マスター、メディア、クライアント | カーネル 3.16.7-1 以降                                     | 詳細情報を参照できます。<br><a href="#">Debian 8 リリースノート</a>                         |
| HP-UX                              | マスター、メディア、クライアント | COMPLIBS.LIBM-PS32                                   | HP-UX プラットフォーム上に AT をインストールする場合、このパッチが必要になります。                           |
| HP-UX IA-64                        | マスター、メディア、クライアント | Networking.NET-RUN:<br>/usr/lib/libip6.sl            |                                                                          |
|                                    | マスター、メディア、クライアント | Networking.NET-RUN-64:<br>/usr/lib/pa20_64/libip6.1  |                                                                          |
|                                    | マスター、メディア、クライアント | Networking.NET-RUN-64:<br>/usr/lib/pa20_64/libip6.sl |                                                                          |
|                                    | マスター、メディア、クライアント | Networking.NET2-RUN:<br>/usr/lib/hpux32/libip6.so    |                                                                          |
|                                    | マスター、メディア、クライアント | Networking.NET2-RUN:<br>/usr/lib/hpux32/libip6.so.1  |                                                                          |
|                                    | マスター、メディア、クライアント | Networking.NET2-RUN:<br>/usr/lib/hpux64/libip6.so    |                                                                          |
|                                    | マスター、メディア、クライアント | Networking.NET2-RUN:<br>/usr/lib/hpux64/libip6.so.1  |                                                                          |
|                                    | マスター、メディア、クライアント | Networking.NET2-RUN:<br>/usr/lib/libip6.1            |                                                                          |

| オペレーティングシステムの種類とバージョン      | NetBackup の役割    | パッチ                                        | 注意事項                                                                           |
|----------------------------|------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| HP-UX 11.31                | メディア (Media)     | QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバンドル        | このパッチバンドルは NetBackup メディアサーバーのサポートに必要です。これは HP-UX March 2010 パッチバンドルです。        |
| Oracle Linux 6             | マスター、メディア、クライアント | カーネル 2.6.32-504.14.1 以降                    | 詳細情報を参照できます。<br><a href="#">カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新</a>                         |
| Oracle Linux 7             | マスター、メディア、クライアント | カーネル 3.10.0-229.7.1 以降                     | 詳細情報を参照できます。<br><a href="#">カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新</a>                         |
| Red Hat Enterprise Linux 6 | マスター、メディア、クライアント | カーネル 2.6.32-504.16.2.el6 以降                | 詳細情報を参照できます。<br><a href="#">Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:0864 - セキュリティアドバイザリ</a> |
| Red Hat Enterprise Linux 7 | マスター、メディア、クライアント | カーネル 3.10.0-229.7.2.el7 以降                 | 詳細情報を参照できます。<br><a href="#">Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:1137 - セキュリティアドバイザリ</a> |
| SUSE Linux 11              | マスター、メディア、クライアント | SUSE Linux Enterprise 11 Service Pack 3 以降 | 詳細情報を参照できます。<br><a href="#">Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2014:1695-1</a>       |
| SUSE Linux 12              | マスター、メディア、クライアント | カーネル 3.12.31 以降                            | 詳細情報を参照できます。<br><a href="#">Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2015:0068-1</a>       |
| Windows Vista x86-64       | クライアント           | KB936357                                   | <a href="#">Microsoft マイクロコード信頼性更新 (推奨)</a>                                    |
|                            | クライアント           | KB952696                                   | 暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。                                            |
| Windows Server 2008 x86-64 | クライアント           | KB952696                                   | 暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。                                            |

| オペレーティングシステムの種類とバージョン            | NetBackup の役割    | パッチ       | 注意事項                                                                                                     |
|----------------------------------|------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Windows Server 2008 x86-64 (SP2) | マスター、メディア、クライアント | KB979612  | TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。                                                                       |
| Windows Server 2008 x86-64 R2    | マスター、メディア、クライアント | KB2265716 | コンピュータがランダムに応答停止する場合のホットフィックス。<br>このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。                  |
|                                  | マスター、メディア、クライアント | KB982383  | ディスク I/O 負荷が大きい状況で I/O パフォーマンスが低下する場合のホットフィックス。<br>このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。 |
|                                  | マスター、メディア、クライアント | KB983544  | レジストリハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。<br>このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。                   |
|                                  | マスター、メディア、クライアント | KB979612  | TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。<br>このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。              |

ベリタスでは、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の更新をお勧めします。

- Microsoft Storport の Hotfix。この Hotfix は、Windows x86 および x64 の SP1 と SP2 の両方に適用されます (必須)。<http://support.microsoft.com/?id=932755>
- Symantec AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
- SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

## NetBackup 8.1.1 のバイナリサイズ

表 B-2 には、NetBackup 8.1.1 マスターサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算

バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。

**メモ:** 表 B-2 および 表 B-3 は、サポートされているオペレーティングシステムのためのリストになっています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

p.40 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

**表 B-2** 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

| OS                              | CPU アーキテクチャ    | 32 ビットのクライアント | 64 ビットのクライアント | 64 ビットのサーバー | 注意事項                                                                      |
|---------------------------------|----------------|---------------|---------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------|
| AIX                             | POWER          |               | 1692 MB       | 7722 MB     |                                                                           |
| Canonical Ubuntu                | x86-64         |               | 1700 MB       |             |                                                                           |
| CentOS                          | x86-64         |               | 1105 MB       | 6860 MB     | メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。                                                 |
| Debian GNU/Linux                | x86-64         |               | 1700 MB       |             |                                                                           |
| HP-UX                           | IA-64          |               | 2162 MB       | 2162 MB     |                                                                           |
| OpenVMS                         | IA-64          |               | 128 MB        |             | 表示されているサイズは、NetBackup 7.5 バイナリ用です。OpenVMS の NetBackup 8.1.1 バイナリは提供されません。 |
| Oracle Linux                    | x86-64         |               | 1105 MB       | 6423 MB     |                                                                           |
| Red Hat Enterprise Linux Server | x86-64         |               | 1105 MB       | 6861 MB     |                                                                           |
| Red Hat Enterprise Linux Server | z/Architecture |               | 889 MB        | 3905 MB     | メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。                                                 |

| OS                           | CPU アーキテクチャ    | 32 ビットのクライアント | 64 ビットのクライアント | 64 ビットのサーバー | 注意事項                                   |
|------------------------------|----------------|---------------|---------------|-------------|----------------------------------------|
| Solaris                      | SPARC          |               | 1191 MB       | 6111 MB     |                                        |
| Solaris                      | x86-64         |               | 1180 MB       | 6111 MB     |                                        |
| SUSE Linux Enterprise Server | x86-64         |               | 1059 MB       | 6597 MB     |                                        |
| SUSE Linux Enterprise Server | z/Architecture |               | 883 MB        | 3857 MB     | メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。              |
| Windows                      | x86-64         |               | 442 MB        | 2255 MB     | 互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。 |

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、[表 B-2](#) にリストされている合計バイナリサイズの **40~50%** になります。
- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、[表 B-2](#) にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの **15~20%** です。

## NetBackup OpsCenter

[表 B-3](#) には、**NetBackup OpsCenter 8.1.1** と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の **OpsCenter Agent**、サーバー、および **ViewBuilder** のおよそのバイナリサイズが含まれます。

**表 B-3** 互換性のあるプラットフォームの **NetBackup OpsCenter** のバイナリサイズ

| OS                              | CPU アーキテクチャ | エージェント | サーバー   | ViewBuilder |
|---------------------------------|-------------|--------|--------|-------------|
| Oracle Linux                    | x86-64      |        | 710 MB |             |
| Red Hat Enterprise Linux Server | x86-64      |        | 709 MB |             |
| SUSE Linux Enterprise Server    | x86-64      |        | 678 MB |             |

| OS             | CPU アーキテクチャ | エージェント | サーバー   | ViewBuilder |
|----------------|-------------|--------|--------|-------------|
| Windows Server | x86-64      | 246 MB | 676 MB | 236 MB      |

## NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン用ディスク容量要件は、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』および『Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインガイド』にそれぞれ記載されています。





# NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

## NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.40 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした **Hofix** や **EEB** がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

### NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にある Veritas のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

---

**メモ:** 相互に互換性のある NetBackup のバージョンについての情報が必要な場合は、互換性リストから[NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)]を選択してください。

---

## NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

ベリタス社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。ベリタス社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

ベリタス社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

ベリタス社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。ベリタス社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

### SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

[https://sort.veritas.com/eosl/show\\_matrix](https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix)

p.40 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

## プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 8.1.1 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『[NetBackup リリースノート](#)』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.11 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

# 他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)
- [NetBackup リリースノートについて](#)
- [NetBackup 管理者ガイドについて](#)
- [NetBackup のインストールマニュアルについて](#)
- [NetBackup の構成マニュアルについて](#)
- [NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて](#)
- [その他の NetBackup のマニュアルについて](#)

## NetBackup の関連マニュアルについて

---

**メモ:** UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

---

ベリタスは、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。これらのドキュメントはリリース形式にしたがって NetBackup の新しいバージョン向けに公開されています。

特に指定のないかぎり、NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードできます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

---

**メモ:** ベリタスは、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

---

## NetBackup リリースノートについて

NetBackup ソフトウェアには、次のリリースノートドキュメントが公開されています。

- **NetBackup リリースノート**  
このマニュアルには、UNIX と Windows のプラットフォーム両方に対応する NetBackup の今回のリリースに関するさまざまな情報が含まれています。この情報には、新しい機能、プラットフォームの互換性の変更、パッチの必要条件、マニュアルの修正、既知の問題が含まれていますが、これらに限定されるものではありません。NetBackup のマニュアルやオンラインヘルプの他の場所で見つからない可能性がある操作上の注意事項も含まれています。
- **NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド**  
次のドキュメントには、すでに特定、解決され、NetBackup ユーザーが Emergency Engineering Binary (EEB) の形式で利用可能になった既知の問題の一部が示されています。ここには、指定のリリースで修正されているが、EEB では修正されなかった可能性のある問題の一部が示されています。

## NetBackup 管理者ガイドについて

次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**  
このマニュアルでは、UNIX または Windows サーバー上で NetBackup を構成して管理する方法について説明します。このマニュアルでは、NetBackup インターフェースについて、ホスト、ストレージデバイスとメディア、ストレージライフサイクルポリシー (SLP)、バックアップ、レプリケーション、監視と報告を構成する方法について説明します。
- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 2**  
このマニュアルでは、NetBackup のための追加の構成とインターフェースオプションについて説明します。このマニュアルには、NetBackup ライセンスについての参照項目と情報も含まれています。

## NetBackup オプションの管理について

NetBackup オプションの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackupAdd-in for Microsoft SCVMM Console ガイド**

このガイドでは、**NetBackup Add-in for SCVMM (System Center Virtual Machine Manager)** をインストールしてトラブルシューティングする方法や、**NetBackup** バックアップイメージから仮想マシンをリストアする場合にこのアドインを使う方法について説明します。

- **NetBackup AdvancedDisk ストレージソリューションガイド**  
このガイドでは、**NetBackup AdvancedDisk** ストレージオプションを構成、管理、トラブルシューティングする方法について説明します。**NetBackup** に公開されているディスクストレージをバックアップ用のファイルシステムとして使う方法について説明します。
- **NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド**  
このガイドでは、サーバーのリカバリ処理を自動化して簡素化するために **NetBackup BMR (Bare Metal Restore)** ブートサーバーとクライアントのインストール、構成、管理を行う方法について説明します。
- **NetBackup クラウド管理者ガイド**  
このガイドでは、**Veritas OpenStorage** を使ってクラウドの **STaaS (Storage as a Service)** ベンダーからデータのバックアップとリストアを行うために **NetBackup** を構成し、管理する方法について説明します。
- **NetBackup DataStore SDK プログラマガイド XBSA**  
このガイドでは、**XBSA API** を設定して **NetBackup** と通信するアプリケーションのバックアップを作成したり、アプリケーションをアーカイブしたりするために使う方法について説明します。
- **NetBackup 重複排除ガイド**  
このガイドでは、**NetBackup** メディアサーバー重複排除オプションを使って **NetBackup** 環境のデータ重複排除を計画、構成、移行、監視、管理する方法について説明します。
- **NetBackup for AHV (Acropolis Hypervisor) 管理者ガイド**  
このマニュアルでは、**NetBackup** で **AHV (Acropolis Hypervisor)** を保護する方法について説明します。
- **NetBackup for Hadoop 管理者ガイド**  
このガイドは、**NetBackup** を使用して **Hadoop** のデータを保護する方法、および **Hadoop** プラグインを配備して **NetBackup for Hadoop** を構成する方法について説明します。
- **NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド**  
このガイドでは、**Windows Hyper-V** サーバーで動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップポリシーを構成して管理する方法について説明します。
- 『**NetBackup for NDMP 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux**』  
このガイドでは、**NAS (Network Attached Storage)** システムのバックアップとリストアを開始し、制御するために **NetBackup for NDMP (Network Data Management Protocol)** をインストール、構成、使用する方法について説明します。

- **NetBackup for VMware 管理者ガイド**  
このガイドでは、VMware ESX サーバーで動作する VMware 仮想マシンのオフホストバックアップのような機能を実行するために NetBackup を構成する方法について説明します。
- **NetBackup ログリファレンスガイド**  
このガイドでは、NetBackup 管理コンソールからレポートを実行する方法やログがシステムどこに保存されているかなど、直面する問題をトラブルシューティングする場合に役立つ各種の NetBackup のログやレポートについて説明します。
- **ディスクの NetBackup OpenStorage のソリューションガイド**  
このガイドでは、NetBackup でバックアップ用にインテリジェントディスクアプライアンスを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter 管理者ガイド**  
このマニュアルでは、NetBackup OpsCenter ユーザーインターフェースを使って NetBackup とそのエージェントや製品オプションのレポート、監視、警告を行う方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter レポートガイド**  
このガイドでは、NetBackup OpsCenter を使って包括的なビジネスレベルのレポートを生成して使用し、データバックアップ操作やアーカイブ操作の有効性をトラッキングする方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter パフォーマンスチューニングガイド**  
このパフォーマンスと調整のマニュアルは、OpsCenter のパフォーマンスを分析、評価、調整する管理者を対象にしています。このマニュアルは、OpsCenter が最大のパフォーマンスを実現するように調整する方法、バックアップ環境に応じて OpsCenter に採用するシステム構成、向上した OpsCenter のパフォーマンスにかなうベストプラクティスについてアドバイスすることを意図しています。
- **NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client**  
このガイドでは、NetBackup 用の vSphere Web Client プラグインをインストールしてトラブルシューティングする方法について説明します。vSphere Web Client プラグインを使うと、vCenter サーバーが管理する仮想マシンのバックアップの監視、バックアップからの仮想マシンのリカバリ、VM のバックアップ状態や関連メッセージの監視が可能です。
- 『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』  
このガイドでは、NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットとスナップショットレプリケーションの実装方法について説明します。スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。
- **NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド**  
このガイドでは、ファイバートランスポート方式を使ってクライアントバックアップを高速化するために NetBackup SAN クライアントの機能を設定、構成、管理する方法について説明します。

- **NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド**  
このガイドでは、VMware、Hyper-V、Replication Director との統合などのさまざまなスナップショットベース機能を有効にするために NetBackup Snapshot Client をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup Vault 管理者ガイド**  
このガイドでは、オフサイトメディアストレージのためにバックアップイメージの選択と複製を自動化するように NetBackup Vault をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup Vault 操作ガイド**  
このガイドでは、NetBackup Vault を使って 2 つの主要な作業分野 (管理と操作) の一部としてメディアを Vault 処理する方法について説明します。説明する作業には、オフサイトにテープを送付し、サイトでテープを受け取り、オフサイトメディアと Vault ジョブでレポートを実行する手順が含まれます。
- **WebSocket サービス (NBWSS) リファレンスガイド**  
このマニュアルでは、クラウドアプリケーションとの通信に NetBackup WebSocket サービス (NBWSS) を使用方法と NBWSS 用に WebSocket エンドポイントを設定する方法について説明します。

## NetBackup データベースエージェントの管理について

NetBackup データベースエージェントの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup for DB2 管理者ガイド**  
このガイドでは、NetBackup for DB2 データベースエージェントをインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド**  
このガイドでは、Veritas Enterprise Vault の構成情報とアーカイブデータを保護するために NetBackup for Enterprise Vault Agent をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Informix 管理者ガイド**  
このガイドでは、UNIX 版 NetBackup クライアント上で Informix データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Informix エージェントをインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド**  
このガイドでは、NetBackup クライアントで Lotus Notes データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Lotus Notes エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for MariaDB 管理者ガイド**



このマニュアルでは、NetBackup for MariaDB エージェントをインストール、構成、管理する方法について説明します。

- 『NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』  
このガイドでは、Microsoft Exchange Server のオンラインバックアップとリストアを行うために NetBackup for Exchange Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- 『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』  
このガイドでは、Windows 版 NetBackup クライアント上の SharePoint データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SharePoint Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド  
このガイドでは、Microsoft SQL Server データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Microsoft SQL Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- NetBackup for Oracle 管理者ガイド  
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Oracle データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Oracle エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- NetBackup for PostgreSQL 管理者ガイド  
このマニュアルでは、NetBackup for PostgreSQL エージェントをインストール、構成、管理する方法について説明します。
- NetBackup for SAP 管理者ガイド  
このガイドでは、NetBackup クライアント上の SAP データベースと SAP HANA データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SAP エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- NetBackup for SQLite 管理者ガイド  
このマニュアルでは、NetBackup for SQLite エージェントをインストール、構成、管理する方法について説明します。
- NetBackup for Sybase 管理者ガイド  
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Sybase データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Sybase エージェントを構成し、使用方法について説明します。

## NetBackup のインストールマニュアルについて

次のインストールマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- NetBackup インストールガイド

このマニュアルでは、UNIX や Windows のプラットフォームに NetBackup サーバー、クライアント、管理ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

- **NetBackup LiveUpdate ガイド**  
このマニュアルでは、環境内の NetBackup ソフトウェアリリースの配布に関するポリシーに基づいた方法を提供するための NetBackup LiveUpdate サーバーを設定する方法を説明します。
- **NetBackup クイックスタートアップグレードガイド**  
このガイドの目的は、『NetBackup アップグレードガイド』を経験豊富なユーザーに向けて補足することです。このガイドに記載されている情報は、ユーザーがアップグレードの前提条件をすでに読み、理解していることを前提としています。このガイドの使用は、初心者または経験の浅い NetBackup 管理者には推奨されません。経験の浅い管理者は、『NetBackup アップグレードガイド』を使用してください。
- **NetBackup アップグレードガイド**  
このマニュアルは、NetBackup ソフトウェアのアップグレードの計画と実施を支援します。このマニュアルは最新情報を提供するために定期的に更新されます。

## NetBackup の構成マニュアルについて

NetBackup オプションの次の構成ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup デバイス構成ガイド。**  
このガイドでは、NetBackup サーバー用に使うストレージデバイスホストのオペレーティングシステムを設定し、構成する方法について説明します。

## NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて

次のトラブルシューティングガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup トラブルシューティングガイド**  
このガイドは、一般的なトラブルシューティングに関する情報を提供し、NetBackup 製品と機能のために使えるさまざまなトラブルシューティング方法を説明します。
- **NetBackup 状態コードリファレンスガイド**  
このガイドには、NetBackup、Media Manager、デバイス構成、デバイス管理、ロボットエラーの状態コードの完全なリストが記載されています。各状態コードのリストには説明と推奨処置が含まれています。

## その他の NetBackup のマニュアルについて

次のマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup コマンドリファレンスガイド**  
このガイドには、NetBackup のマニュアルページのコマンドすべてを含む、UNIX システムと Windows システムで動作するコマンドについての詳細情報が含まれます。
- **NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド**  
このガイドでは、クラスタで NetBackup マスターサーバーをインストールして構成する方法について説明します。
- **NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド**  
このガイドでは高可用性環境で NetBackup を使う各種方式を説明し、単一障害点から NetBackup を保護するためのガイドラインを示します。
- **NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド**  
このガイドでは、アクセス制御、強化された認可と認証、暗号化を使って NetBackup を保全する方法について説明します。
- **NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド**  
このガイドでは、マスターサーバーとメディアサーバーのポート、クライアントポート、デフォルトポート、その他の NetBackup が使うポートを含む NetBackup ネットワークポートの参照情報を示します。
- **NetBackup スタートガイド**  
このガイドでは、NetBackup のこのリリースと関連しているインストール前の情報についての概要を提供します。ガイドにはまた、NetBackup メディアキット、NetBackup 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ、NetBackup ライセンスキーの要件の説明も含まれます。
- **NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド**  
このマニュアルでは、NetBackup の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。これらの手順には、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブ、リストアする方法も含まれます。
- **NetBackup サードパーティの法的通知**  
この文書には、Veritas NetBackup 製品と OpsCenter 製品に関係するサードパーティプログラム (適用される場合) の所有権通知とサードパーティプログラムのライセンスが含まれます。